NISC NEWS

第１４号（２００７年１０月１２日発行）
内閣官房情報セキュリティセンター
National Information Security Center (NISC)

★目次

1. 情報セキュリティ施策紹介

【 政府機関の情報セキュリティ対策の実施状況 】

内閣官房情報セキュリティセンター（NISC）は、政府機関の情報セキュリティ対策の実施状況など、2件の評価結果を第13回情報セキュリティ政策会議（８月３日開催）に報告するとともに公表しましたので、その概要をご紹介いたします。

⑴ 政府機関の情報セキュリティマネジメントに関する評価結果について

○ 政府機関の情報セキュリティマネジメント評価とは、各府省庁における情報セキュリティ対策に関するマネジメントが、計画・実施・評価・改善のいわゆるPDCAサイクルの各段階で確実かつ効果的に行われているかを評価するものです。

○ NISCでは、2007年2月より、「計画」「周知」「実施」「評価と改善」の各段階にわたる45の評価指標に基づいた調査・評価を実施し、今般、各府省庁における数々の取り組み（プラクティス）を抽出し、評価しました。

○ その結果、政府機関の模範となる優れた取り組みを44件選定、うち5件を2006年度のベストプラクティスとして選定しました。選定されたベストプラクティスは次のとおりです。

【2006年度情報セキュリティ・ベストプラクティス（5件）】
・省内ネットワークを活用した職員の支援（総務省、経済産業省の2件）
・幹部職員の下で全庁一体となった対策の推進（警察庁の1件）
・外部委託における情報セキュリティの確保（外務省、防衛省の2件）

○ NISCとしては、より多くの機関においてこれらのベストプラクティスが積極的に活用され、政府全体の情報セキュリティ対策が向上することを期待しています。

⑵ 政府機関の情報セキュリティ対策の実施状況に関する重点検査及び評価結果について

○ 政府機関の情報セキュリティ対策の実施状況に関する重点検査とは、「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準」において必須の対策とされている基本遵守事項の中でも特に重要な事項に着目し、その実施状況を重点的に検査するものです。

○ NISCでは、昨年に引き続き、各府省庁の端末及びウェブサーバに対する対策実施状況についての重点検査を行いました。その結果、昨年と比較して大幅な改善がみられ、各府省庁における情報セキュリティ対策が着実に向上していることがわかりました。

○ NISCとしては、政府機関において今後とも着実かつ計画的な情報セキュリティ対策が図られるよう必要な評価や調査を実施していく予定です。

⑶ 詳細はホームページで公表しております。ご興味のある方は次のＵＲＬで評価結果を御覧ください。
（http://www.nisc.go.jp/conference/seisaku/index.html#seisaku13）

2. 情報セキュリティQ

人を騙すために意図的に流されるデマ情報をhoax（ホークス）と言います。エイプリル・フールの嘘ニュースとか、ネッシーやUFOの目撃譚などもhoaxの一種です。近年では、実際には存在しないコンピュータ・ウイルスの情報とともに、でたらめな対策情報を流すようなhoaxもあります。この電子メール版の不幸の手紙と言えるhoaxがチェーンメールとなって拡散して、「デマウイルス」と呼ばれることもあります。なお、デマウイルスに含まれている対策情報には、OS の正常動作に必要なファイルを削除させたり、トロイの木馬の導入を誘うような悪質なものもありますので、安易にメール内のリンクをクリックしたり、添付ファイルを保存したりしないよう、ご注意を。
さて、このhoaxという言葉の語源が今回の問題です。その由来となったのは以下の4つのうちのどれでしょう？

① 嘘ニュースを書く名人だった記者の名前
② 魔術師の呪文
③ 有名なデマ情報の頭文字
④ しばしば引用されるが、現実には存在しない本のタイトル

（正解は次号にて掲載致します。）

3. NISCOLUMN（ニスコラム）

【 少年易老学難成 】

「パソコンに詳しいですか？」と問い掛けられたら、皆さんはどのように答えますか。そして「詳しいですよ」と答える方においては、いつまで詳しくあり続けられると思っていますか。

約 10 年前、公務員となって最初に配属された部署では、執務室内で唯一の技術系職員であったため、ワードやエクセルの操作方法や端末の障害対応等、パソコン関係の質問・依頼を課員から受けることが多くありました。気が付くと、執務室内のみならず課員の自宅までサポート領域に含まれるようになり、「インターネットに接続できなくなった」、「電源が入らなくなった」などの相談を受け、終業後や休日に課員宅に出張サービスをすることもありましたが、その頃においてはコンピュータ関係を専門としていない私であってもある程度の対応ができていたように思えます。

その後の数年において、情報技術の発展は業務や社会生活の様式を急激に変えてしまいました。個人的には継続的にその流れについて行くのは不可能と考えています。身近な例として、家電製品であるDVDレコーダーを購入した際、5冊構成の分厚い取扱説明書を手に取る気にもならずタイマー録画と再生以外の機能を使うことを諦めてしまう有様で、私と同年代又は私より年長の方々は将来に不安を感じないのだろうかと思うことすらあります。

今年の8月、夏季休暇を利用して帰省していた際、65 才になる母親が急にパソコンの使い方を習いたいと言い始めました。聞いたところによると、片田舎である私の実家周辺においても、母と同年代でパソコンの使い方を習いたいと考えている方々が多くいるそうで、市主催のパソコン教室等が度々開かれているとのことでした。
母は自分で本を購入してそれを読みながら独学すると言いましたが、本屋のパソコンコーナーの前で路頭に迷うのは明らかであるため、とりあえず私が教えることになりました。電源の入れ方、ダイアルアップ（実家にはブロードバンドが入っていないため）での回線の接続方法、WEBの起動方法等を説明したのですが、2時間程で教える側も教わる側もクタクタになってしまい、なぜこの程度のことが理解できないのかと不思議に思いつつも、いずれ我が身といった確信に近い予感がします。

また、単純な操作ですらこのような状態ですので、情報セキュリティ対策等を理解し、実施できるのは遠い先であり、そのような利用者がネット上に多く存在することに恐ろしさも感じます。

このメールマガジンを読まれている皆さまの多くは、所属する組織等において情報システムの操作や情報セキュリティに係る質問を受けたり、教育を実施したりする側の方々だと思います。
私は先日の経験から、教育において必要なのは技術力ではなく忍耐力であり、初心者対応はとても面倒だと再認識しました。しかしながら、誰でもいずれ教わる側になるのですから・・・。

（M. S）

＜編集後記＞

今号の補佐官ノートは、都合によりお休みさせていただきます。楽しみにされていた読者の皆様、申し訳ありません。次号には必ず掲載いたしますので、ご期待下さい。

さて、最近、内閣官房情報セキュリティセンター（NISC）のHPや発表資料に、NISC のロゴマークがついていることにお気づきでしょうか？ これは、NISC の設置 2 周年を機に、センター員の発案により、羅針盤（コンパス）をモチーフとしてデザインされました。政府が描くセキュリティ政策を実現するには、「政府・地方公共団体」、「重要インフラ」、「企業」、「個人」の 4 つの主体が、それぞれの役割に応じた対策を実施していく必要があります。このロゴマークには、各々の主体が進むべき方向を定める際の「しるべ」、すなわちコンパスのような存在でありたいという NISC の願いが込められています。

＜バックナンバー・配信先変更・配信中止＞

本メールマガジンにおけるバックナンバーの取得及び配信先の変更、配信の中止等は下記の URL から可能です。

http://www.nisc.go.jp/nisc-news/

＜御意見、御感想＞

http://www.nisc.go.jp/mail.html